

事業の背景・目的

・実績報告書（別紙10-3）を基に、事業の背景や目的、必要性、地域における生物多様性保全上の課題等を簡潔に記載（300文字以内）
ミヤコカナヘビは、国内希少野生動植物種であり、保護増殖事業計画が策定されている。また、日本動物園水族館協会は、2014年に環境省と締結した「生物多様性保全の推進に関する基本協定書」に基づき、2017年より生息域外保全の取組を開始し、ミヤコカナヘビ管理計画書を策定している。本事業は、当園にてミヤコカナヘビの生息域外保全をするため、飼育繁殖のための環境を整備し、飼育繁殖を通して、科学的知見の集積、普及啓発を行い、本種の保全に対し、動物園の立場から貢献していくことを目的とする。

事業の内容

・実績報告書（別紙10-3）を基に、実施した事業結果の概要を簡潔に記載。事業が複数ある場合や、複数年度にわたる場合には、枠囲みを用いるとわかりやすい。

事業① ミヤコカナヘビの飼育繁殖事業
・日本動物園水族館協会のミヤコカナヘビ管理計画に基づき2023年10月に上野動物園から20頭のミヤコカナヘビを導入し、飼育・展示・繁殖を継続して実施中。



交尾中のミヤコカナヘビ

事業② 普及啓発事業

- ・2024/3/16 ミヤコカナヘビに関するシンポジウムを開催
- ・2024/9/3～9/6、3名で宮古島を視察し、啓発パネルを作成。講習会等で保全の取り組みや現状について周知啓発を行った。
- ・固有種のニホンカナヘビやニホントカゲとの比較展示を実施。



得られた成果

・実績報告書（別紙10-3）を基に、事業の成果、活動継続の見通し、事業終了後の展開等を簡潔に記載（400文字以内）
・2024/3/16にミヤコカナヘビ来園記念シンポジウムを開催。有識者や研究者を招き、講演を行っていただき、当園での取り組みも紹介した。来園者にミヤコカナヘビについて知ってもらう機会を得ることができた。
・日本動物園水族館協会のミヤコカナヘビ管理計画に基づき、飼育繁殖を継続して行い、2025年2月末時点で31頭を飼育中。今後も繁殖を継続し、適正飼育頭数を維持していく予定。
・生息地である宮古島を視察し、地元でのミヤコカナヘビの保全の取り組みを知ることができた。また、文化や歴史も併せて学ぶことができ、生息域内保全では、住民の生活との関わりが非常に大切だということがわかった。視察で得られた知見は、小学生対象の出前教室などで環境教育の啓発に利用した。